

読むミルク



女性起業家の調査は、世界的にみてもなかなか難しいと言われています。なぜなら、女性の場合は「プチ(生活型起業)」が多いため、借入れや雇用、店舗を構えることが少なく、金融、公的機関、調査会社のデータ網に入ってくるのからでした。

もっとも近いデータとして、起業塾受講者のデータがあります。この調査データから、特筆すべき点がわかってきました。

起業者のイメージからする

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

と意外にも、女性の場合には既婚者が多く、平均年齢は40歳前後で育児世代と重なっている人が多いということです。

つまり、「通常勤務」では、育児休業法などがあってもそのブランクや学童年齢の子育て問題、昨今浮上している介護との両立が難しいということがわかりました。家庭環境(育児・家事・介護)と仕事

らではの視点」のやり方であれば、通常なら採算ベースに乗りにくくても、特化した新分野を作り上げることができるとのことです。

注目すべきは、石川県の場合でも、調査対象者77人のうち、予定年商1000万円以下の小規模は55人とかなりの割合を占めますが、数こそろえば総額約3億2500

また、彼女たちは地域に根付いているので、「知らない人に頼むのは……」「コンビニユーターはわからない」という老人が声をかけやすい強みもあるのだと、今問題となっている「買い物弱者対策」にもつながるのではないのでしょうか。これは、女性と老人だけにとどまらず、地域を含めて相利共生が生み出される可能性もあります。

プチ起業で地域活性化

皆さん、「女性のプチ起業と地域活性化」に注目してみませんか!?

の両立ができる選択肢の一つにプチ起業があるということ。つまり、これまでの形態とは違った起業と言えます。

万円になるといことです。これは、低迷する地方経済には、朗報と言えます。

さらに、女性のプチ起業は、自宅です業を起すために家賃がかからず、借入れもない場合が多いので金利負担も少なく、初期費用も少ないので、収支的にも一般的な起業に比べるとキャッシュフローが回りやすいのです。

(参考資料)
2006年〜10年「金沢市における女性起業家創出への課題について」支援機関の役割と効果」金沢市役所

08年「女性の起業に関する調査事業」独立行政法人中小企業基盤整備機構中部支部

08年「石川県における女性の自立としての起業の考察」財団法人いしかわ女性基金

しかし、起業となると、女性の場合には管理職経験が少なく、経営資源(人・物・金)があまりないことが課題でした。それがさほど影響しないプチ起業で、さらに「女性な

りやすいのです。

08年「女性の起業に関する調査事業」独立行政法人中小企業基盤整備機構中部支部

08年「石川県における女性の自立としての起業の考察」財団法人いしかわ女性基金